

【薬学部 臨床薬剤学講座】薬学部 5 回生 田中 千都さんが
筆頭著者の論文が *Molecules* 誌に掲載されました。

子宮頸がん免疫療法をさらに発展できる可能性を提唱！

本学薬学部 5 回生 田中 千都さん（臨床薬剤学講座 所属）が筆頭著者として執筆した論文（英文）が、国際的学術雑誌 *Molecules* 誌（Impact Factor 4.411）に掲載されました。

本研究において田中 千都さんは、ヒト子宮頸がん細胞における免疫チェックポイント分子 Programmed Cell Death Ligand-1 (PD-L1) の細胞表面局在が、細胞内の足場タンパク質の一つである Ezrin によって調節されることを突き止めました。本研究成果により、PD-L1 の足場タンパク質 Ezrin を新たな治療標的とすることで、今後の子宮頸がん免疫療法をさらに発展できる可能性を提唱しました。

なお、本研究は本学薬学部臨床薬剤学講座と天然薬物学講座の共同研究によるものです。

田中 千都さんのコメント：

『どんな実験も 1 回では思うような結果が得られず、条件を変えて何度も実験を繰り返しました。その過程で納得できる結果が出たときはすごく嬉しく、すべての実験を最後までやりきったときには、自分自身の知識や技術の成長を感じました。また論文執筆は初めての経験であったため、たくさんの苦労がありました。特に苦戦したのは、研究の意義、実験結果、考察について正確に読者へ伝わる英語で表現することでした。確認のために先生へ原稿を提出すると、何度も真赤に訂正されて戻ってきました。しかし、先生方にアドバイスをいただき、友人と相談しながら論文が完成したときは大きな達成感がありました。苦労して完成させた研究成果を世界へ向けて発信することができ、とても嬉しく思っています。』

【掲載論文の情報】

雑誌名： *Molecules* 2021, 26(18), 5648 <https://www.mdpi.com/1420-3049/26/18/5648>

タイトル：

Ezrin Modulates the Cell Surface Expression of Programmed Cell Death Ligand-1 in Human Cervical Adenocarcinoma Cells.

著者：

Chihiro Tanaka¹, Takuro Kobori¹, Mayuka Tameishi¹, Yoko Urashima¹, Takuya Ito², Tokio Obata¹

¹ Laboratory of Clinical Pharmaceutics, Faculty of Pharmacy, Osaka Ohtani University, Tondabayashi, Osaka 584-8540, Japan

² Laboratory of Natural Medicines, Faculty of Pharmacy, Osaka Ohtani University, Tondabayashi, Osaka 584-8540, Japan

問い合わせ先（研究に関すること）：

薬学部 臨床薬剤学講座 准教授 小畑 友紀雄

E-mail： obatatoki@osaka-ohtani.ac.jp（*を@に置き換えて下さい。）